



2019年8月吉日

各位

イノベーションリサーチ株式会社
OPEN ART 事業部広報担当

オフィスアートサービス OPEN ART が 若手アーティスト支援の証となるゴールドパートナー制度創設

イノベーションリサーチ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役：小磯武）は、オフィスにアート空間に生まれ変えるサービス OPEN ART において、ゴールドパートナー制度の創設をすと発表した。

OPEN ART は、従業員のモチベーションアップを第一の目的として、一般に無味乾燥的になりがちなオフィスを、若手アーティストの絵画作品に囲まれた空間へと生まれ変えるサービスで、2019年にスタートし、首都圏を中心に活動を展開させている。

展示作品は、専門のオフィスアートデザイナーが、顧客へのヒアリングやオフィス実測の上、最適にコーディネートした提案がベースとなり、かつ、一定期間で作品を交換する仕組みであるため、TPOに合ったものが選ばれると好評を博している。また、絵画と云えば、これまでは「所有」が当然であったが、OPEN ART は、従業員のための「利用」料サービスであることから、比較的始めやすい点もポイントだ。



この OPEN ART で扱う作品は、プロ画家から学生、アマチュアまで幅広く、中心は若手アーティストによるものである。そして、これらの作品がオフィスで展示された期間に応じて、作者へロイヤリティーが支払われている。つまり、OPEN ART を利用することで、若手アーティストの創作活動の支援となるのである。

そもそも、現代の日本で絵画の創作活動を続けることは非常に困難である。芸術作品の

評価には時間が掛かることから、せっかく才能にあふれたアーティストであっても、目の見る前に、創作をやめてしまう人が後を絶たない。事実、美大を卒業しても、作品の創作だけで生活ができる人はごく稀で、別の仕事を持ちながら続ける方や、創作自体をやめてしまう方がほとんど。創作スペースや画材、保管スペースなど、高額な出費が必要となり、趣味で続けるとしても、かなり大変なのが実情だ。

近年は、インターネットや SNS の発達から、自己プロデュースが巧みな人は独力で一定の評価までつなげることは可能であるが、アート界限に集まる人自体が少なく、実際はそう簡単ではない。また、ギャラリーに出展したとしても、売れないことには収入にならず、たくさん描いたが徒労に終わってしまうというケースもままある。

OPEN ART は、このような現状を踏まえ、有望なアーティストに創作活動をやめずに続けてもらえるよう、既に作った作品をお預かりし、ロイヤリティーという新たな収益を得る道を作っている。そして、オフィスに展示されたときの顧客の反応をフィードバックするなど、金銭面以外の支援にも積極的だ。

OPEN ART では、上記のようなサービス展開を行う中で、OPEN ART 顧客の社会貢献の高さに鑑み、一定の条件を満たす顧客に対し、社会貢献度を PR しやすいゴールドパートナーの認定を行うこととした。認定条件と使用条件は以下のとおりである。

■認定条件

以下の条件を満たした法人・個人をゴールドパートナーに認定する。

- ✓ オフィスの 5 ヶ所以上の場所において、6 ヶ月以上作品展示を行っていること
- ✓ 作者に対する感想フィードバック等に積極的に関与していること

■使用条件

ゴールドパートナーは、以下のゴールドパートナー章を、名刺、自社ホームページ等に使用することができる。



カラーVer.



モノクロVer.



名刺活用イメージ

ホームページでは、上記表章と、以下の文言をセットで使用することが可能である。

『私たちは、OPEN ART のゴールドパートナーとして、若手アーティストの創作活動を応援しています。 <https://www.open-art.jp/files/goldpartner.pdf>』

【お問い合わせ】

イノベーションリサーチ株式会社

<https://www.open-art.jp/>